

委託契約の締結

— 処理を委託するには、まず委託契約を —

産業廃棄物の処理を委託する場合、排出事業者は収集運搬業者(焼却等の中間処理、再生、埋立)の2者とそれぞれ個別に、書面で委託契約を結ばなければなりません。(口頭契約は禁止されています)

処理業者の選定

- 処理業者の許可内容を確認
(許可証原本の提示を求め、保健所等に確認する)
- 処理施設の能力等の確認
(委託先の業者等が適正に処理する能力があるかどうか、どのような処理がなされているか等を実地に調査することで確認することが望ましいです)
- 収集運搬の場合は、積み込み地と積下ろし地における許可の有無について確認が必要です。

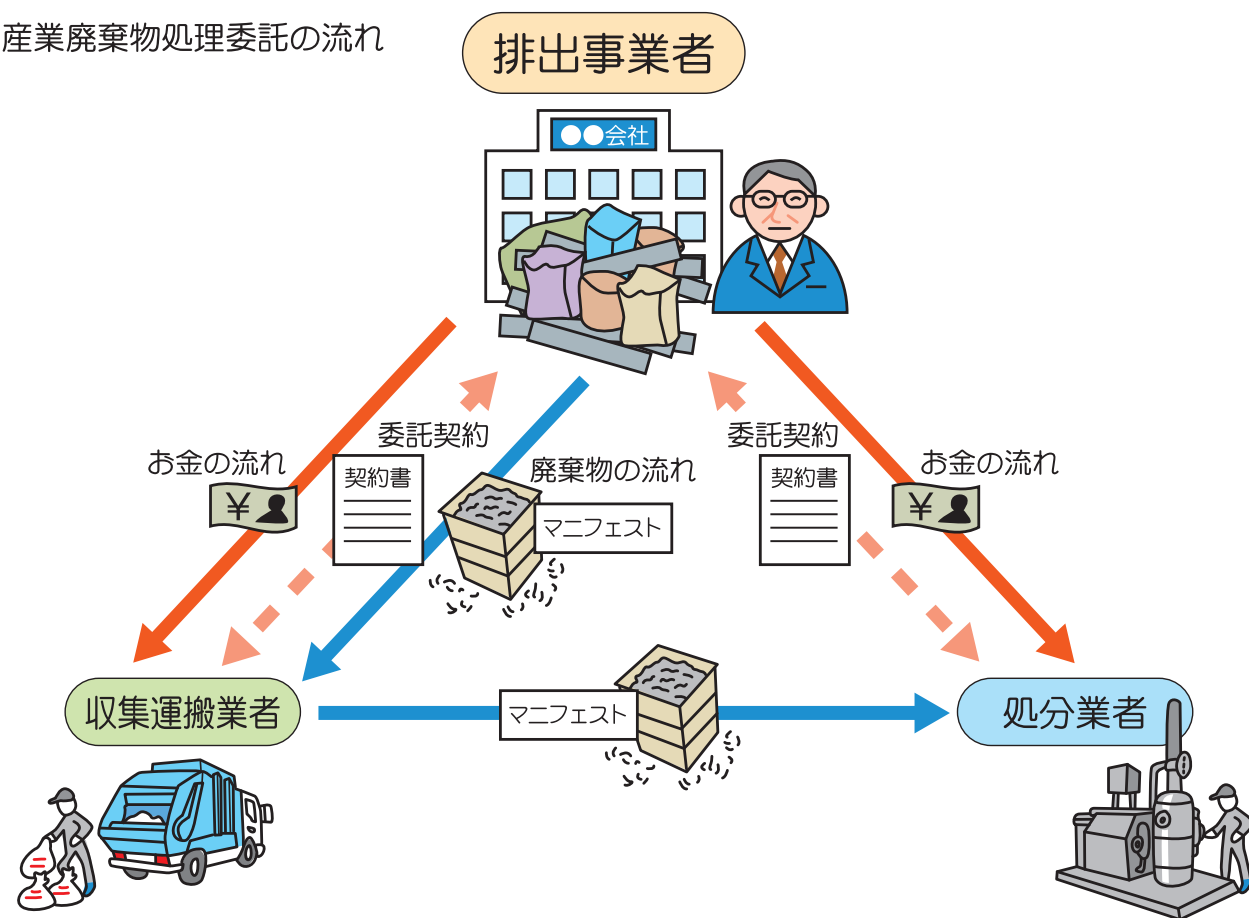
委託契約の締結

- 書面による契約(口頭契約は禁止されています)
- 二社契約の原則(収集運搬、処分それぞれの処理業者と契約)

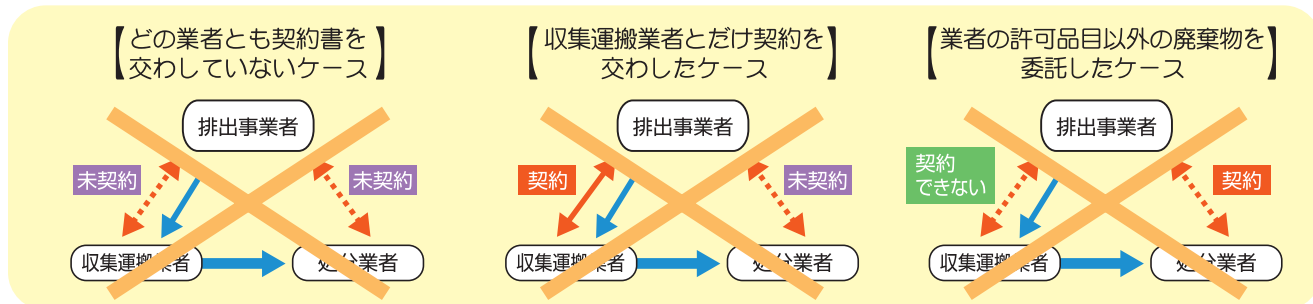
契約の際には許可証の内容確認を。



産業廃棄物処理委託の流れ



処理委託契約の違反事例



産業廃棄物処理業者の許可の種類

産業廃棄物処理業者の許可は、工程ごとに下記の通り分かれています。

1. 収集運搬

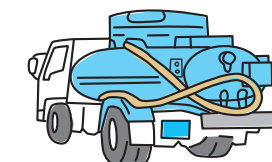
収集運搬は、産業廃棄物を中間処理施設や最終処分場などへ運ぶ工程です。バキュームカー、タンクローリー、汚泥吸排車、清掃ダンプ、パッカー車、脱着装置付コンテナ車などいろいろな車輛が使われています。



パッカー車



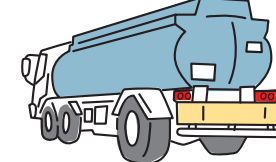
ダンプ



バキュームカー



脱着装置付コンテナ車



タンクローリー



清掃ダンプ

2. 中間処理

中間処理は、廃棄物を減量化(減容化)、再資源化(リサイクル)を行う工程です。焼却施設、破碎施設、発泡スチロールの粉碎・圧縮施設、廃酸・廃アルカリの中和施設、汚泥の脱水施設、油の再生施設などがあります。

| | | |
|---------------|--|--|
| 焼却施設 | | 廃棄物を焼くための焼却炉を備えた施設です。焼却炉にはダイオキシン対策や、煙によって大気を汚さないための排ガス処理装置など厳しい基準をクリアして施設がつけられます。 |
| 廃酸・廃アルカリの中和施設 | | 強い廃酸や廃アルカリは、中和し無害化してから放流します。また、有害金属などを含む廃酸を中和することで、有害金属を含む廃酸を沈殿物として回収することができます。中和槽には、プロペラ攪拌機がついています。 |
| 汚泥の脱水施設 | | 大量の水を含んだ汚泥は、そのまま埋立することができないので、遠心脱水機(洗濯機の脱水機と同様の原理)、真空脱水機(汚泥の水分だけ吸い取る)、加圧脱水機(汚泥から水分を押し取る)などの装置で脱水します。 |
| 油の再生施設 | | 水と油の混合廃液から油だけを分離したり、汚れた油を蒸留したり、ろ過して再生油を得る施設です。 |

3. 最終処分

最終処分場には、安定5品目と呼ばれる廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、陶磁器くず、がれき類(コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類)だけを処分する「安定型最終処分場」、汚水浸出を防ぐ遮水シートなどで保護された「管理型最終処分場」、コンクリートで保護され外部から完全に遮断された「遮断型最終処分場」があります。

| | | |
|----------|--|--|
| 安定型最終処分場 | 廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス及び陶磁器くず、がれき類(コンクリート殻等)、など絶対に腐敗したり有害物質が溶け出したりすることがないことを埋立前に確認して埋めることができます。埋立空間を外部と仕切る遮水工を持ちません。 | |
| 管理型最終処分場 | 紙くず、繊維くず、ばいじん、汚泥などの産業廃棄物を埋め立てる施設です。遮水工を施し、流れ出る水は無害化して放流します。埋め立てた後管理し続ける処分場です。 | |
| 遮断型最終処分場 | 通常の方法では無害化することが難しい廃棄物を納めるための施設です。鉄筋コンクリート製の頑丈な構造物で、雨水が中に入らないように、上部には屋根を設けています。中に溜まった水をくみだして外部に排出するようなことはありません。 | |